

2022年度 第1回 都市協会合同

審判トレーニングセンター 開催報告



開催/参加協会

淡路協会・神戸協会・西宮協会・芦屋協会

【開会挨拶】

トレセン開催にあたって



- ・ トレセンの目的
- ・ スケジュール
- ・ 試合審判割り当て

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、3年ぶりの開催となった都市協会合同トレセン活動。

その間、リモート(zoom)会議を何度も行い、テーマや内容を「決めては中止」を繰り返してきました。

そんな経緯がある中、2023年1月15日に洲本市のアスパ五色にてようやく審判トレセンを行うことができました。

淡路協会審判委員長である赤坂氏から研修の目的や内容、審判/インストラクター割当ての発表がありました。

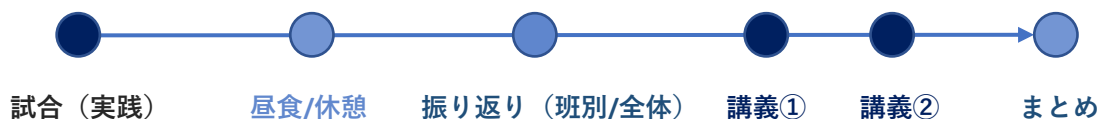
2022年度の活動テーマ 【動き出し】

午前中は、メイン/サブグラウンドの2会場に分かれ、U-13の試合に割当てられた各審判員が実活動を行いました。

またそれと同様にインストラクターも各試合に割当て、本研修会に若手指導者が参加することで、ベテラン指導者からリアルタイムで解説/指導を受けました。



[タイムスケジュール]



動画撮影による分析

指導者班の活動/取り組みとして、少し高台（観覧席）から俯瞰した形で試合を観戦しました。

主審の動き出し～動き方、判定やマネージメント、審判団としての連携等、起こった事象、対処法、気づいたことを細かくメモし、試合後の振り返りをする際の元データとして使用します。

また、同時進行でビデオ撮影も行い、口頭だけでなく、実際の動きを（後に）映像で見ることで審判員自身も第三者的視点を持って振り返ることができ、「思っていたより動き出しが遅かった」「少し迷いがあったけれど、あの場面であの判定は合っていた」等、気づきも生まれました。



より一層意識して動くことで見える次の景色

試合に入る前段として、各審判員は「自分なりの目標」を持ち、今持っている課題と向き合い、それへの対策/対応を考えた上、試合に臨んでいます。今回のテーマである「動き出し」に対して、これまで以上に意識を置くことで、動きに変化が生まれました。



研修の中で座学によって知識を得ることは大事ですが、やはり実戦（実践）に勝るものではありません。

今、何を見るべきなのか？次、どんな展開になりそうなのか？そのためには何をすべきか？どのタイミングで、どの方向へ移動すべきなのか？

情報収集（現状把握）～予測～決断（判断）～実行～現認（目視確認）等を繰り返し、競技規則に則り試合を円滑に進めなければなりません。

良い判定を下すためにも「動き出し」が重要であることを再確認できた場となりました。

なぜ、
「動き出し」
が大切なのか？

深掘りして
見えてくるもの。



良いスタート。
遅れてのスタート。

その違いを検証。

試合後に“今日の出来”を審判員/インストラクターと一緒に考えて話す「振り返り」を行いました。

インストラクターは試合中・後の時間を見ながら指導ポイントを絞り込み、まとめていきます。

着替えを終え、全力を出し切った審判団に対し、まずは労いの言葉を掛けること。これを疎かにしてはいけません。その後、試合結果の確認や懲戒罰の有無、試合に臨むにあたっての目標等を聞き、試合でのパフォーマンス（成果点/課題点の抽出）について、双方間で話し合いました。

良い判定をするための一条件として、良い位置で見る（角度と距離）ことが大事であり、それと連動する形または延長線上に「動き出し」があります。ただし、何でもかんでも動けばよい物でもなく、「何のための動き出しなのか？」を今一度深く考えるキッカケを作ることが、今回の研修の最大の目的でもありました。



映像分析



西宮協会審判委員長の梶山インストラクターより、午前中に活動された試合を用いて映像分析を行いました。

インストラクターは、前半終了時に一旦指導ポイントを絞り込み、試合終了直後から即座に「褒める点・課題点・確認事項等」伝えるべき内容をまとめます。また重要事項に値する事象が発生した場合は、それらを最初に話すよう「喋る優先順位」も考えておく必要があります。

このセッションにおいては、良かった場面（映像）を見て「的確な判定ができた要因は？」と担当審判員へ話しかけ、思考プロセスから決断に至るまでを詳しく聞くことができました。

逆に課題（例：判定基準にバラツキがあった等）があった際に「何を見て判断した？」「何故争点から離されたのか？」「その結果、どうなった？」と、エラーが起きた要因がどこにあったのかをまずは考えさせることが大切であり、その上で「じゃあ、どうすれば良かった？」等、段階的に指導していきます。

良かった場面は誉め讃え伸ばし、そうでなかった場面については、参加審判員から意見や考えを聞きつつ根拠を深掘りしていき、改善点/解決策（動き出しのタイミングを映像を止めるなどして具体的な指導を施し）を話し合いながら共通理解を深めました。



競技規則改正の再確認

試合映像分析終了後の次は、日本協会から提供されたオフサイドの判定に関わる「意図的なプレー」と「ディフレクション」との違いについて、映像をもとに改めて説明＋意見交換を行いました。

場面によっては、得点に大きく関わる部分でもあるため、どんな時がオフサイドとなり、どんな時がオフサイドにならないのかを、しっかりと理解しておかなければなりません。

この講義においては、オフサイド判定/ノットオフサイド判定の2例を分別し、映像の再生/停止/スローを繰り返すことで、赤坂氏からきめ細かな指導・再確認が行われました。

判定する際に考慮すべき点

- オフサイドの反則に関わる動き、プレー、位置関係がどうであったか。
(攻撃側/守備側競技者の位置と数、ボールコンタクトの瞬間)

- 上記に加え、距離・時間・予測の可否・身体の向きや動き等を見て判断。

詳細については、<http://www.jfa.jp/laws/>内「2022/23 サッカー競技規則の改正について」をご覧ください。

[PDF] 日サ協発第220134号の「意図的なプレー」と「ディフレクション」との違いに関するガイドラインの明確化について

[映像] オフサイド意図的なプレーの明確化 説明映像・・・JFATV

- 最終決定は「主審」である。

フリーディスカッション 「審判あるある」 事例共有



芦屋協会審判委員長の川島インストラクターから「審判あるある」として、平素の審判活動の中で起こった出来事や悩み事、競技規則の理解について、参加者全員と意見交換を行い、情報共有を図りました。



一日お疲れ様でした。審判員は一生懸命やること。指導者は労いと褒め言葉を掛け、エラー発生時にはまず審判員を守ってあげてください。味方でいてください。仮にエラーが起こった場面があったとして、その事象のみを指摘するのではなく、経緯をしっかりと把握・分析し、繰り返さないために何をすべきかを考えさせ、解決策を提示する指導をお願いします。来年度も頑張っていきましょう。

おわりに

山本審判委員長



[詳細内容]

【日程】

2022年度 都市協会合同審判トレセン（淡路1/15）



一般社団法人兵庫県サッカー協会 審判委員会主催		2022年度 都市協会合同審判トレセン	日程	2023年1月15日（日）	
会場	アスパ五色（五色台運動公園） 〒656-1344 洲本市五色町鳥飼浦2613／電話:0799-34-1177				
大会	第25回 兵庫県中学生U-13サッカー選手権大会 淡路地区予選				
目的	各都市協会から参加して頂く、審判員およびインストラクターの上級を目指すにあたって、サッカー観、審判観など審判員として必要な資質の向上を目指す。 兵庫のサッカーがより魅力的なものになるように、技術と知識向上を狙う。				
インストラクター	神戸協会：三裏 浩記（2） 西宮協会：梶山 勝弘（2） 井上 克己（2） 芦屋協会：川島 陽治（2） 渡辺 直幹（2） 田中 雄一郎（見習い） 淡路協会：赤坂 竜一（3） 高倍 剛（3）				
参加審判員	西宮協会：草山 誠（3） 芦屋協会：三谷 優希（3） 淡路協会：西藤 晃章（3） 村田 善紀（3） 岡 龍典（3）				
運営協力	淡路協会：別處 大輝（2） 藤巻 洋（3）				
月日	時間	日程の概要		服装	動きやすい服装
1月15日（日）	8:30	集合 アスパ五色（五色台運動公園） クラブハウス 2階会議室		役員 8:00集合	
		開講式・挨拶・説明・大会要項確認			
	8:45	会場ごとに試合の準備			
	9:30	準決勝①メイン R：村田 A1：草山 A2：岡 INS：三裏・井上・赤坂		試合時間：25-5-25 PK ※ビデオ撮影あり	
	9:30	準決勝②サブ R：三谷 A1：別處 A2：西藤 INS：渡辺・田中雄・高倍		※ビデオ撮影あり	
	10:30 ～ 11:10	準決勝 振り返り 決勝に向けてのアドバイス			
	12:00	決勝 メイン R：草山 A1：三谷 A2：岡 4TH：別處 INS：全員（割当のない審判員含む）		試合時間：30-5-30 延長：5-5 PK ※ビデオ撮影あり	
	13:45 ～ 14:45	ビデオ分析 決勝		- 確認ポイントの書き出し（全員） - 主審が確認したいシーンの確認（映像から） 「動きだし」の確認（映像から）	
	14:50 ～ 16:00	- 競技規則改正の再確認 - フリーディスカッション 「動き出し、審判あるある事例共有」		- オフサイド通達の確認（JFA映像） - 芦屋協会 川島さん・淡路協会 赤坂からの「あるある事例」紹介 - 審判員からの判断基準や心がけ等の確認	
	16:00	閉講			
	16:15	解散		役員：閉講後に片付け ⇒ 小反省会を実施 ⇒ 完全撤収	